

「沼のほとり」

発行責任者 遠藤織太郎(TEL:04-7182-0387) 編集責任者 國方幸生(TEL:04-7184-3385)

事務所:我孫子市白山二丁目 13 番 5 号

e-mail:info@teganuma-trust.jp

ホームページ:http://teganuma-trust.jp/



(見晴台 日本蜜蜂邸)

活動報告

分蜂捕獲大作戦

環境保全グループ(養蜂部会)

桜が満開になるころ、蜂飼いはなんとも落ち着かぬ日々を過ごす。「しず心なく花の散る」のを惜しんだのは風流な古人だが、蜂飼いはそわそわと蜂箱の周りを徘徊する。というのも、桜が満開になるころ、蜂が巣分れし、新たな住居を求めて飛び立つからである。通常 3 回ほど分蜂するから、すべて捕まえれば元巣とあわせて 4 群になる。トラストには越冬に成功した 2 群の蜂がいるので、 $2 \times 4 = 8$ 。この 8 群を全部捕まえようというのが、谷口養蜂部会新リーダーの、アベノミクスならぬヤグチノミクスである。

分蜂群を捕獲するには 2 つのやり方がある。1 つは、分蜂後、木の枝に集合した蜂を捕まえて強制収容する方法。もう 1 つは、金稜辺(キンリョウヘン)という蘭に誘引された分蜂群が、そばに置いてある空き巣箱に自主入居するのを待つやり方である。用意は万全である。なんと谷口リーダーは自腹で、13 鉢もの金稜辺を育ててきたのだ。これを要所に配置する。そして養蜂部会員は入れ替り立ち替り巣箱を監視する。

4 月 4 日、ついにその日がやって来た。渦を巻いて飛んでいる分蜂群を発見。この群れは集会所のつげの木の高みに留まった。5m はあろうかという高さである。しかし谷口リーダーは勇猛果敢、梯子をかけてなんなく取り込む。だが、残念なことに、この群れはその日のうちに逃亡してしまった。

次は 8 日。谷口リーダーと隊員数名が蜂箱を点検中、大きな体のリーダーが大声で叫ぶ。「来た！」。見ると金稜辺つきの巣箱めがけて何千匹もの蜂が飛んできて、見る見るうちに巣箱に吸い込まれていく。先日逃げた群れかもしれない。1 群目ゲット。次は 10 日。寺田さんが、蜂が外に出て騒いでいると教えてくれた。蜂の羽音で分かったそうだ。これは元巣の上の桜の高枝にとまった。これも谷口さんが収容。2 群目ゲット。逃去防止に「ハチマイッター」という安易な名前の、だが効果抜群の装置を取り付けておく。そして次は 12 日。浅妻さんが分蜂を目撃。桜の下枝にとまった。これは谷口リーダーの手をわずらわせる必要もない。富沢隊員が収容。ハチマイッターを設置。3 群目。

というわけで、現在 3 群捕獲。見晴台の群もようやく分蜂の兆しを見せている。ヤグチノミクスの 8 群確保も夢ではないという、相変わらずの「捕らぬ狸」で筆をおきます。

(4 月 30 日 富澤 崇 記)

見晴らしの良い城址の高台で、杉野アドバイザーの講話が行われた。春の麗らかな日差しの中で行われた講話は、非常に重たいテーマのTPPの問題であった。私たち多くの国民は、関心のあるものの、報道で公表されるもの以外、真相は全くわからない。TPP参加によって、ドラスティックに世界が変わろうとしている予感はおぼろげながら解る。それが良い方向に変わるのか、悪い方に流れるかは予測がつかない。TPPで輸入された安い農産物が入ってきた時に、危惧するのは、食料自給率の問題だと思う。カロリーベースの換算だから、ごまかしで足りるという人もあれば、いや足りないという人もいる。しかし、2050年には、世界の人口が100億人ともいわれ、食料が国家戦略に使われるともいわれている。本当にこの国は、障壁、圧力団体の利害を超えて農業政策のビジョンを描けるのか。今までの施策を見ていると、はなはだ心もとない。そんな先のことは、我々の預かり知らぬことと言っているのは、これからの子供達に申し開きができない。

杉野さんの話で、流通業が契約で大量の農産物を買取り、市場価格を決定しているとか。流通業が農業経営に多大な影響をあたえているとか。グローバルスタンダードのもとで、業種業界を問わず、大競争時代に突入したということか？ 少なくともアニメ「となりのトトロ」に出てくる昭和の田園風景だけは、何とか残したいと思うが、これも効率が叫ばれる中でははかない望みだろうか。少なくともあちらこちらの畑に農業工場が建ち並ぶのだけはごめんこうむりたいが。 (八木下 豊 記)

種籾の予措実習について

4月13日(土)、農教室第3回目、当日は晴れてはいましたが朝方はまだ肌寒い天候のもと、日暮会場で「種籾の予措」についての講義と実習を受けました。講師の遠藤先生より、始めにイネの原産地について、そして弥生時代に日本に伝来、改良を重ねて現在に至るまでのお米の歴史の話聞き、日本人として主食米の大事さを思い知らされました。

続いて、本日のテーマ「種籾の予措」、塩水選で良い種籾の選びかたについて講義を受けました。「籾殻が大きく、玄米も充実して重い種籾」を選ぶには、食塩水の比重液で調べられる。ウルチ籾の場合には1.13(水10ℓに食塩2.68kgを溶解)。この比重の出し方も判らないところ、生卵の浮き方で微妙な比重を割り出す方法を学びました。食塩水の中で、立って浮いていれば1.10、横になって浮いた状態で1.13、底に横になって沈んだ状態なら1.00でこれは普通の水の状態だそうです。生卵の浮き具合を観察、先生自らの指導のもと水の量を調整しながら比重を割り出しました。そして、前年に刈り取った籾殻3kgを編みざるに一回ずつ採り食塩水につけて、よくかき混ぜ、浮いた籾は捨て、沈んだ良い籾を水洗いして種籾としました。その種籾を60℃のお湯に5分間浸し、直ぐに水で冷やすことでイモチ病などの雑菌処理を施し、次の作業の種籾の給水へと実習が進みました。

「お米をつくるのは、先ず田植えから」程度の知識しかない私にとって、事前の苗代作りは、こんなに大事な工程があることを今回はじめて知りました。食塩水の比重液による種籾選び、水洗い、水切り、種子消毒、浸種、催種を経てからやっと種まきして苗代。その前段での冬水田圃の準備作業。田植え作業以降も、これから学習する水田管理や稲の管理そして収穫へと、学ぶことがいろいろあり、昔からの稲作りの知恵とその後の品種改良技術には驚き、感心するばかりです。これからの実習を交えた農教室での米づくりを楽しみにしているところです。 (青柳 弘治 記)

4月7日(日)、天気予報が見事に外れて台風一過を思わせるような晴天でした。ただ、強烈な風に悩まされながらの定例作業となりました。午前中は雨の予報もあり、この日の参加者は13名とやや少なめでした。

恒例となったトンネル下の道路周辺の清掃から開始。この日はいつもの道路に加えて前日の雨で泥が詰まった「排水溝」を中心に実施。網に掛かっている枯葉や泥をスコップ等ですくい出しました。

その後は2班に分かれました。みかん山に行き行って施肥と傾いた樹や枝の修復を行う班と、ハス田に移動して雑草や浮草の除去を行う班です。筆者はハス田班へ参加。ハス田に入って雑草を抜いていきました。冒頭、書いたように非常に風が強かったものですから、泥に足を取られながら転ばないように注意して草取りに終始しました。休憩を挟んだところでみかん山班と合流。赤い浮草や緑の藻を網を使って畦にすくい出しました。人数を投入したことで10時半頃にハス田での作業は終了しました。

最後に、暗渠の清掃です。田んぼに移動。暗渠の両端にある土管を縦にしてあるようなものの蓋を開けて、暗渠の中を渡しているタワシ付きのロープを引っ張ることで内部を掃除して行きます。この作業を3箇所で行ったところで作業はすべて終了です。気温が高い中での作業ということもあり筆者もいささか疲れしました。皆様、お疲れ様でした。

4月23日(火)、21日が雨で延期となり、23日に丸井福祉会の受入れ準備作業を行いました。

かまどの整備や米磨ぎ、寄贈品の用意などです。ところが、翌日の天気が悪いことを考慮し、24日の受入れは中止となりました。準備に関した皆様、ありがとうございました。日を改めて実施いたしますので、その際は是非とも宜しくお願いします。 (原田 泰夫 記)

根戸城址を背に手賀沼トラスト活動拠点である日暮さん宅から、広がる畑、田んぼ、手賀沼を見渡す四季折々の里山の移ろいを見るとホッと心癒され好きな風景です。

15年前、ご近所、友人みんな顔見知りの仲間10名程でそばの種播きをしたのがトラスト活動のスタートではなかったかと思えます。そして今年の農教室開講式は各リーダーがそれぞれの役割を担当し、てきぱき進行されて、作業内容も判りやすく話される状況に、トラストパワーの見事さにとても感動しました。15年の歳月がトラストをみんなで大事に育ててきたと実感したのでした。毎年参加していても、農作業は天候に左右されることが大きく、はじめて知る発見や思うようにいかなかったこともあり、喜んだり、心配したりとの連続で、それがまた面白く楽しいと思っています。

年を重ねてくるこの頃、「食べることが生きること」につながり、食べることにこだわり、少しでも体に良いもの、安全・安心できるものを食べたいと思うようになってきました。食べ物はスーパー等でたやすく手に入り、便利にはなりましたが、ほんとに美味しいものは何か、かたちの良いもの、外見のいいものが美味しい条件でないことをトラストの収穫物から知りました。形が不ぞろいだったり、小さくても、採れたての何と美味しいことか、ジャガイモやトウモロコシ、トマト等から体感し、自分たちで作ったものはいとおしい気持ちになるのが不思議です。

小学生で参加していたお子さんももう大学生や社会人になってきたと聞きます。次の世代にちゃんとバトンタッチできるように、一人ひとりの力は小さいですが、みんなで汗を流し、力を合わせて、土を耕し、草をとり、手入れをしながら、活動を継続してこの環境を大切に守っていきたくて願っています。体力には少々自信がなくなりましたがこれからも活動に参加して楽しみたいと思います。

小学生で参加していたお子さんももう大学生や社会人になってきたと聞きます。次の世代にちゃんとバトンタッチできるように、一人ひとりの力は小さいですが、みんなで汗を流し、力を合わせて、土を耕し、草をとり、手入れをしながら、活動を継続してこの環境を大切に守っていきたくて願っています。体力には少々自信がなくなりましたがこれからも活動に参加して楽しみたいと思います。

5月18日(土)は田植えです!

風薫る若葉の季節がやってきました。5月4日にプール育苗が始まりました。苗は順調に育っているようです。「田植え・早苗饗」には、ご近所、お友達をお誘い下さい。大勢の方の参加をお待ちしております。田植えには田圃用長靴の着用をお勧めします。早苗饗(サナブリ)では、日暮満子さんから「お赤飯」の差し入れがあり、交流事業グループの女性陣がつくる「トン汁」が振舞われます。また、蕎麦勉強会のオジサン達が指導する「蕎麦がき」もお楽しみに!

【農地法解説】

「農業委員会」

理事 坂巻 宗男

農地法に基づく農地転用や農地の権利移転についてその許可等を行うのは市町村に設置されている農業委員会です。基本的に全国の市町村に一つずつ設置されることとなっており、我孫子市や柏市にも農業委員会があります。ちなみに、当法人の杉野副理事長は現在柏市の農業委員を務めています(私も数年前に我孫子市の農業委員を務めました)。

今後、NPO 法人手賀沼トラストが農地法により農地の売買や賃借を行う際には、地元の農業委員会の許可を受けることとなります。そこで、本号では農業委員会の概要について記すことにします。

農業委員会の平均的な姿としては、農家の中から選挙によって選ばれる委員が16名、農業団体や議会から選出される委員が5名、合わせて21名の組織になっています。但し、実際に選挙が行われることはほとんどありません(無投票にて選出)。この農業委員会は市町村長から独立した機関として位置づけられ、公平・中立に事務を実施することとされています。市役所の中に農業委員会事務局があり、事務局職員は市の職員が務めています。

農業委員会の主な役割としては、三つ上げられています。一つ目は農地の売買や賃借の許可。二つ目は農地転用案件(知事の許可)についての意見具申。三つ目は遊休農地の調査・指導です。

農地の売買や賃借の許可については、農地法第3条に位置づけられています。この条文の中で端的に言えば、買い受けたり、借り受けたりするものが農地を適正に管理できるか、農業経営ができるか等を農業委員会が審査し、許可・不許可の判断を下すこととされています。また、農地転用については同じく4条、5条に位置づけられ、「農地の転用の制限」という主旨での条文となっています。例えば、この原稿でも指摘してきた農用地区域では農地転用はできないということや、農地転用を行うものがその行為をするための資力・信用があると認められるかなどを審査することとなります。しかしながら、この審査が形骸化しているとの指摘もあり、平成21年に出された農林水産省からの通知では「農地転用については、議論が活発ではなく、また、どんな転用でも認めている農業委員会がある。農業委員会自身が利害当事者となる場合すらある」との指摘までされています。

今後、農業委員会としては上述の三つの役割を発揮できるよう、それぞれの地域の特性を踏まえた運営が今まで以上に求められることとなります。

● 5月～6月度活動計画（※ 全会員が対象の「合同活動」・「イベント」等に「網かけ」をしています。）

活動日	時間	区分	活動内容	担当部門
5 5 日	8:30	定例活動	城址通り清掃、ハス田管理、果樹部会:植樹、養蜂部会:点検	環境保全G
5 11 土	8:30	合同活動	田植え準備、農教室:エゴマ・ラッカセイ播種、支柱設置	農事・農教室G
5 18 土	8:30	合同活動	田植え(田んぼ用長靴着用)、早苗饗(赤飯、豚汁、蕎麦がき有)	農事・交流G
5 22 水	9:00	竹教室	花かご制作(日暮会場)	環境保全G
5 26 日	9:00 16:00 18:00	農教室 会議 会議	特別コースセミナー(日暮会場) 15PJTMeeting(けやきプラザ10F) H25年度第2回定例理事会(けやきプラザ8F)	農事・農教室G 15PJT 事務局
6 1 土	13:00	会議 懇親会	H25年度通常総会(我孫子南近隣センターけやき9Fホール) 総会終了後、同会場で懇親会開催	事務局 交流事業G
6 2 日	8:30	定例活動	城址通り清掃、樹林地管理	環境保全G
6 8 土	8:30	農教室	サツマイモ植付け、ニンジン収穫、圃場管理	農事・農教室G
6 16 日	8:30	合同活動	手賀沼トラスト展準備(日暮会場)	15PJT
6 22 土	8:00	合同活動	有機農業見学会(我孫子市福祉バス利用) 17時帰着	農事・農教室G
6 26 水	9:00	竹教室	花かご制作	環境保全G
6 29 土	8:30	農教室	ジャガイモ収穫、カレーパーティー(お皿、スプーン持参のこと)	農事・農教室G
6 30 日	9:00	合同活動	手賀沼トラスト展準備(日暮会場)	15PJT
6 30 日	16:00 18:30	会議 会議	15PJTMeeting(けやきプラザ10F) H25年度第3回定例理事会(けやきプラザ8F)	15PJT 事務局

“バス見学会のご案内”

～有機農業の先進事例を講話と現地視察で学ぶ～

農事農教室グループ 浅妻 正

栃木県にある NPO 法人民間稲作研究所、有機農業技術センター他で講話と現地視察により有機農業を学ぶバス見学会を下記のとおり実施します。会員の皆様多数のご参加をお待ち致しております。

記

日 時:平成 25 年 6 月 22 日(土)

集合場所:日暮駐車場(8時00分集合)

出発時刻:日暮駐車場発 8時30分

第1訪問先:館野廣幸氏農場「有機農業の講話」

昼 食:道の駅「しもつけ」(レストラン有)

(昼食は各自ご自由に)

第2訪問先:稲葉光國氏「講話と施設見学」

交 通:我孫子市の福祉バスを利用

参加費用:無料

帰着時刻:日暮駐車場着 17時00分 解散

参加申込:浅妻:7190-5975

yamatotenshi@yahoo.co.jp

富澤:7199-9644

takashifumiko@kvd.biglobe.ne.jp

川瀬:7163-5723

qgaa94zd@aria.ocn.ne.jp

申込締切日:5月10日(金)

※ 申込み先着順、定員になり次第締め切ります。

以上

平成 25 年度通常総会のお知らせ

平成 25 年度通常総会を下記により開催いたします。5月中旬頃、総会招集通知を資料同封の上送付いたします。お繰り合せの上、ご出席下さるようお願いいたします。なお、ご欠席の場合は同封の委任状(葉書)をご提出下さるようお願いいたします。

日 時:平成 25 年 6 月 1 日(土)13時～17時

場 所:我孫子南近隣センター9階ホール

懇親会:総会終了後、同会場で行います。

参加費:500円

編集後記

◆最近、足腰の衰えもあり、畑に行くのにも車を使うことが多くなった。先日、久しぶりに徒歩で畑へ行く途中、ハケの道の丁度、富澤さんのお宅の前辺りに「藤」がきれいに咲いているのに気がついた。車だと見過ごしていたに違いない。歩かなければ…。

◆15周年記念事業第2弾「手賀沼トラスト展」、第3弾「案山子祭り」のワーキンググループの活動が始動した。手賀沼トラスト15年の歩みをどのように表現するか? 案山子祭りも楽しい企画が練られているようだ。会員の皆さんのアイデアと労力を結集し、一般の市民の皆さんとの交流を深め、楽しい催しにしたいもの。早苗饗、そば祭り、餅つき大会等々も一味違った楽しみが期待できそうだ。(國方記)